

令和7年度 シラバス

教 科	地理歴史	学科・学年	全学科 第3学年	単位数	2単位
		教 科 書	高等学校 新歴史総合 （ 第一学習社 ）		
科 目	歴史総合	副 教 材	なし		
科目の目標	1 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 2 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 3 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
評価の観点	知識・技術【知】		思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【主】	
趣 旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。	

学期	学習内容	学習活動・学習のねらい	評価の観点			評価規準	評価方法
			知	思	主		
一学期	第1部 歴史の扉	1 歴史と私たち 2 歴史の特質と資料			○	・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	定期考査 レポート
	第2部 近現代の世界と日本	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設 第3節 結びつく世界と日本の開国	○			・18世紀のアジアや日本における生産と流通、欧米諸国との貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。	ワークシート 口頭発表
		第4節 帝国主義とアジア諸国の変容 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本		○		・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。	
二学期					○	第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。	定期考査 レポート ワークシート
			○			・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	口頭発表
					○	・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	
三学期		第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 第2節 世界秩序の変容と日本	○			・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。	定期考査 ワークシート 口頭発表
				○		・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	
					○	・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	